

製鉄記念室蘭病院の緩和ケア認定看護師

青郷 裕美さん(46)

「緩和ケア」といって、緩和ケア認定看護師とは何でしょうか。

「緩和ケア」というと終末期だけをイメージする人も多いですが、最近がんと診断されたときから始まると言われています。がんになると身体的な痛みだけでなく、仕事を続けるか、家族に負担がかかるかなど、さまざまなたらさを抱えています。そうしたことを対応していく看護師で、半年間の研修を受けて日本看護協会(東京)から認定を受けました」

製鉄病院の緩和ケア外来の特徴は?

「昨年9月に開設したがん診療センターに、緩和ケア外来と診察室を移設、拡充しました。センターは階ごとにイメージカラーがあり、外来と診察室がある2階は温かみのあるオレンジ色。患者向けの図書室もオレンジ色の内装で、毎月のがんサロンはこの

土曜とーく

がん患者 サロンで救う



「多くの患者さんにサロンに来てほしい」と話す青郷さん

図書室で開いています。他の病院にかかっている患者さんや家族を含め10人前後が集まり、毎月テーマを決めてミニ講座を開き、日頃の様子についても情報交換します」

「病院をあまり意識させない、アットホームな雰囲気作りを目指しています。飲み物を入れるコップは、紙コップだと味気ないので、自宅から人数分のマグカップを持ってきました。患者さんも意見や要望などを気軽に言ってくれ

るので、最近は、そうした声からサロンのテーマを決めています」

見を聞き、次回(10月27日)はリハビリの先生を呼んで体操教室を開きます。過去にはこんな例もあります。サロンに来たことがない患者さんから、「手先が震えて眉毛が描きにくくなった」との声がありました。サロンで話題にする

「今後、どのような思いで緩和ケアに取り組んでいきたいですか。」
「がんは誰がなってもおかしくない病気。治療後も再発の不安は常にあります。そうした悩みや不安を少しでも解消できるように、治療を支える患者さん一人一人の役に立てたいと思います」

せいこう・ひろみ 1969年、苫小牧市生まれ。伊達緑丘高校卒業後、看護師資格を取得し、94年から新日鉄室蘭総合病院(現製鉄記念室蘭病院)に勤務。2008年に緩和ケア認定看護師の資格を取得。13年3月から緩和ケア外来の看護課長。